

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
E112J010		彫刻 (Sculpture)														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
必修	1	3	教育学部 平成31年度以前入学生 用			氏名 村上 佑介 E-mail y-murakami@oita-u.ac.jp 内線 7594										
授業の概要	彫刻の特性である「触覚」に関する体験学習を行う中で、立体表現の初歩的な技術を習得し、創造力、想像力、観察力の基礎を身に付ける。また、彫塑用粘土によるレリーフ制作などを通して、粘土の基本的な扱い方、初歩的な技術、造形感覚を養う。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	粘土を用いて立体的に表現することができる。															
目標2	塑造に使用する道具を適切に扱うことができる。															
目標3	彫刻指導の基本的な知識と技術を習得し、それを基に作品について説明することができる。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	「ガイダンス及び彫刻について」：彫刻の基本的な概念について、素材や技法、制作方法等の観点から説明し、本授業の目的・目標を明示し、課題意識を与える。															
2	「粘土に触れる、粘土を練る」：彫塑用粘土の特質を知り、「練り」の作業を通して、理解を深める。															
3	「彫刻と触覚」：「触覚」を特に意識した素材体験を通して、彫刻の触覚芸術としての側面を理解する。															
4	「彫刻と触覚」：立体表現における触覚の意義を考える。															
5	「レリーフ制作」：レリーフ作品の図案を考える。															
6	「レリーフ制作」：土台を作る。															
7	「レリーフ制作」：粗付により基礎を作る。															
8	「レリーフ制作」：面を意識しながら制作する。															
9	「レリーフ制作」：より細かな面を意識しながら制作する。															
10	「レリーフ制作」：表面の凹凸を意識し制作する。															
11	「レリーフ制作」：粘土原型を仕上げる。															
12	「型取り技法」：完成した粘土の原型作品を石膏型取りする(雌型)。石膏技法に関する理解を深める。															
13	「型取り技法」：完成した粘土の原型作品を石膏型取りする(雄型)。石膏技法に関する理解を深める。															
14	「型取り技法」：完成した粘土の原型作品を石膏型取りする(割り出し・修正・着色)。課題作品として提出をする。															
15	「総括」：提出された課題作品をもとに講評会を行い、本授業における成果と課題を理解する。															
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ	A:知識の定着・確認	制作中に各個人作品の指導の中で、確認、意見交換を行う。				工 夫 そ の 他 の	なし。									
	B:意見の表現・交換	総括・講評会・レポートにより行う。														
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	市内にあるパブリックアートや、美術館の展示作品を鑑賞し、彫刻について広い視野を持つ(5h)														
	事後学修	粘土の扱い方や、道具の使用方法、石膏技法の工程について復習をする(10h)。														
教科書	教科書は使用しない。 適宜資料を配布する。															
参考書	・佐藤忠良『触ることから始めよう』講談社、1997 ・京都造形芸術大学編『立体造形を学ぶ』角川書店、1998 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』(平成29年告示)															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	スケッチ及び完成作品の提出	70%														
	課題レポートおよび講評会での発表	30%														
注意事項	実習では汚れてもよい服装・靴を着用のこと。															
備考	なし。															
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	特別支援学校教諭（美術）、高等学校教諭（美術）
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし。
実務経験を いかした教 育内容	中学校および高等学校の立体造形指導に必要な知識と技能を習得する。